

# 若者の心と

## 体を見つめて

青春期内科の現場から

森 崇

⑧

年々、人格障害を訴える若者が多くなっている。約40年間、若者を診察していますが、最近そう実感します。

そんな若者は共通して、人格形成に関して四つの問題を抱えています。中でも深刻なのは、現実を直視し向き合うために必要な「認知力」を身に付けていないことです。具体的には、食べ過ぎてしまう、怒りにまかせて暴力を振るう、物欲に負けて万引をする…など、自身の欲望を制御できないのです。

また、空想の世界に逃げ込んで現実を見ないことも多くの若者に共通しています。アニメやテレビゲームなどの影響を指摘する人もいますが、私はむしろ、親のしつけや育児に、一貫性がないことに原因があると考えます。

### 人格障害

## 現実を見る認知力 欠如



イラスト・吉田葉子

同じように行動した子どもに対し、親がある時は褒め、別の時はしめることが頻繁にあると、子どもは混乱してしまい、社会生活を送る上で不可欠な「行動の基準」を構築することができなくなるのです。その結果、その時どきの気持ちに任せて、自分勝手な振る舞いをするようになります。

そんな若者は他者とのコミュニケーション

ーションにおいても同様の行動を取ってしまいます。事実よりも自分がどう思っているかに重点を置くため、事実をゆがめて伝えてしまうのです。この認知のゆがみが、他者との諸問題を起こすきっかけになります。

二つ目の問題としては「感情のいびつさ」があります。社会に対し、安心や信頼ではなく、怒りや劣等感といったマイナスの感情を抱いてしまうのです。三つ目は「対人関係」。他者との関係は本来、対等につきあう中で思いやりや愛情などをはぐくみつくり上げていくものですが、あたかも物を扱うように、人と接してしまうのです。

最後は「自身の衝動をコントロールできない」。現実を見る認知力がないから、社会や他者と良い関係を結べず、衝動を爆発させてしまう。相互に絡み合うこれら四つの問題を解決することが、人格障害の改善につながるのです。

(北九州津屋崎病院青春期内科部長)